



## 新天地

鹿児島大学の神崎 亮先生からバトンを引き継ぎました産総研の阿部です。神崎先生とは2009年にブラジルで開催された国際熱測定会議 第14回 ICTAC (14<sup>th</sup> International Congress on Thermal Analysis and Calorimetry) でお知り合いになりました。神崎先生はこの国際会議で若手研究者助成プログラムを受賞され、また最近では「非水環境下における酸塩基反応熱力学」という題目で日本熱測定学会奨励賞を受賞されたりと、若手研究者の中でも非常に優秀な方です。お知り合いになってからは、気さくにお話できる学会仲間として仲良くさせていただいています。

さて、このブラジルでの ICTAC は、私が初めて参加した化学系の国際会議であったため、とても印象に残っている会議の一つです。もともと物理学が専門だった私が、化学系、特に熱分析の分野に足を踏み入れたのは、産総研に入所した2007年からです。このブラジルでの会議は、参加者に知り合いもなく、一人で参加しました。しかしながら、会議が終わる頃には多数の先生方とお知り合いになれ、かつ熱分析分野の研究動向も把握することができ、私にとって実りある会議となりました。この会議が印象に残っているもう一つの理由は、会議の2週間前に、初めての懐妊が発覚したことです。産婦人科での診察後、担当医に「他に何か気になることはありますか?」と聞かれ、ブラジルに出張する旨を話しました。担当医には「外国でなにかあっても保険は利かないからね。」と言われました。妊婦に対応する海外旅行保険はこれまでほとんどなかったようですが、調べてみると対応している保険会社が1社見つかり、申し込んで出発しました。ブラジルは遠く、到着時は疲れ切ってしまって、食事もせずに寝込んでしまい、少々不安になったのを覚えています。振り返れば、無鉄砲なことをしたな、と思いますが、結果的には無事に帰国できたので、今となっては良い思い出です。

女性研究者であれば、結婚、妊娠、子育て、の時期は悩むところだと思います。博士課程を修了するころには30歳が目前ですし、順調に就職できればよいですが、私のように何年もポスドクを経て、やっと就職するパターンもあります。私は、気付いたら30半ばになっていて、結婚も子供も無理だろうな、とあきらめていました。研究が楽しかったのも、それでもいいと思っていましたし、何よりも子育てなどで研究に費やす時間が少なくなるのは嫌だと思っていました。しかし、子供を産んで、今までとは違う視点で物事を捉えたり理解するようになり、研究にも少なからず良い影響を与えていると感じています。もちろん、研究に費やす時間は独身の時よ

り短くなりましたが、その分、仕事のプライオリティーを考えるなど、効率よく研究が進められるように努力しています。子育てと仕事の両立は、私には絶対無理!と思っていたのですが、必要に迫られれば、なんとか頑張れるものだという事もわかりました。何事もその状態になってみないとわからないものです。

趣味でも、研究でも、人生にかかわる出来事でも、何か新しいことに踏み込むことは、勇気がいることです。特に、歳をとってくると、ますます難しくなるように感じます。でも、上に述べたように、新たな研究分野の国際会議に参加したり、出産・子育ての経験をしたりすることで、いくつになっても視野は広がるんだな、としみじみ感じています。思い返せば、私は、大学の学部は数学科でしたが、大学院はほとんど独学で物理学科に進みました。その過程でも、良き友人や先生方に支えられて、新たな分野での活動の場が拓けました。今までも、そしてこれからも、自分の新天地を見つけていくことは、非常に楽しいことです。実は2011年6月に第2子を出産しました。子供が二人になったことで、生活や考え方などに変化が出てきたところでした。新しい環境に自分を置くことで、自分自身の可能性を楽しんでいる、という感じでしょうか。

では、私にとって今後の研究の新天地は?というところ、実はこの分析化学会なのです。昨年から入会したいと思っていたのですが、なかなか機会が持てず、保留になっていました。今年、熱分析研究懇談会の設立を機に入会し、その直後に神崎先生からリレーエッセイのお話をいただきました。入会したばかりでまだ一度も学会に参加していない私が、リレーエッセイを担当させていただくのはおこがましいとも思いましたが、分析化学会への初参加のチャンスかと思い、今回執筆させていただきました。分析化学会でこれから出会う先生方や研究、そしてそのことにより何か新しい発想が自分自身に芽生えることを楽しみにしています。学会でお声をかけていただければ幸いです。

次のリレーエッセイは、神奈川大学の西本右子先生にお願いしました。西本先生とは、日本熱測定学会の標準化WGや庶務幹事のお仕事でご一緒させていただいています。気さくでとてもお優しい方ですが、研究に対しては厳しさがあがり、研究者としても人としても見習いたいところをたくさんお持ちの先生です。熱分析研究懇談会の委員長をされています。分析化学会での、熱分析分野の今後の展開が楽しみです。

〔産業技術総合研究所 阿部陽香〕